

PET/CT 検査室における患者の不安感低減のための 環境デザインに関する研究

早稲田大学理工学研究所

早稲田大学創造理工学部 建築学科

中央大学大学院 理工学研究科経営システム工学

国立国際医療研究センター放射線科核医学

○長澤夏子

馬淵大宇 村元萌

福元啓祐

岡崎百子 諸岡都 南本亮吾 窪田和雄



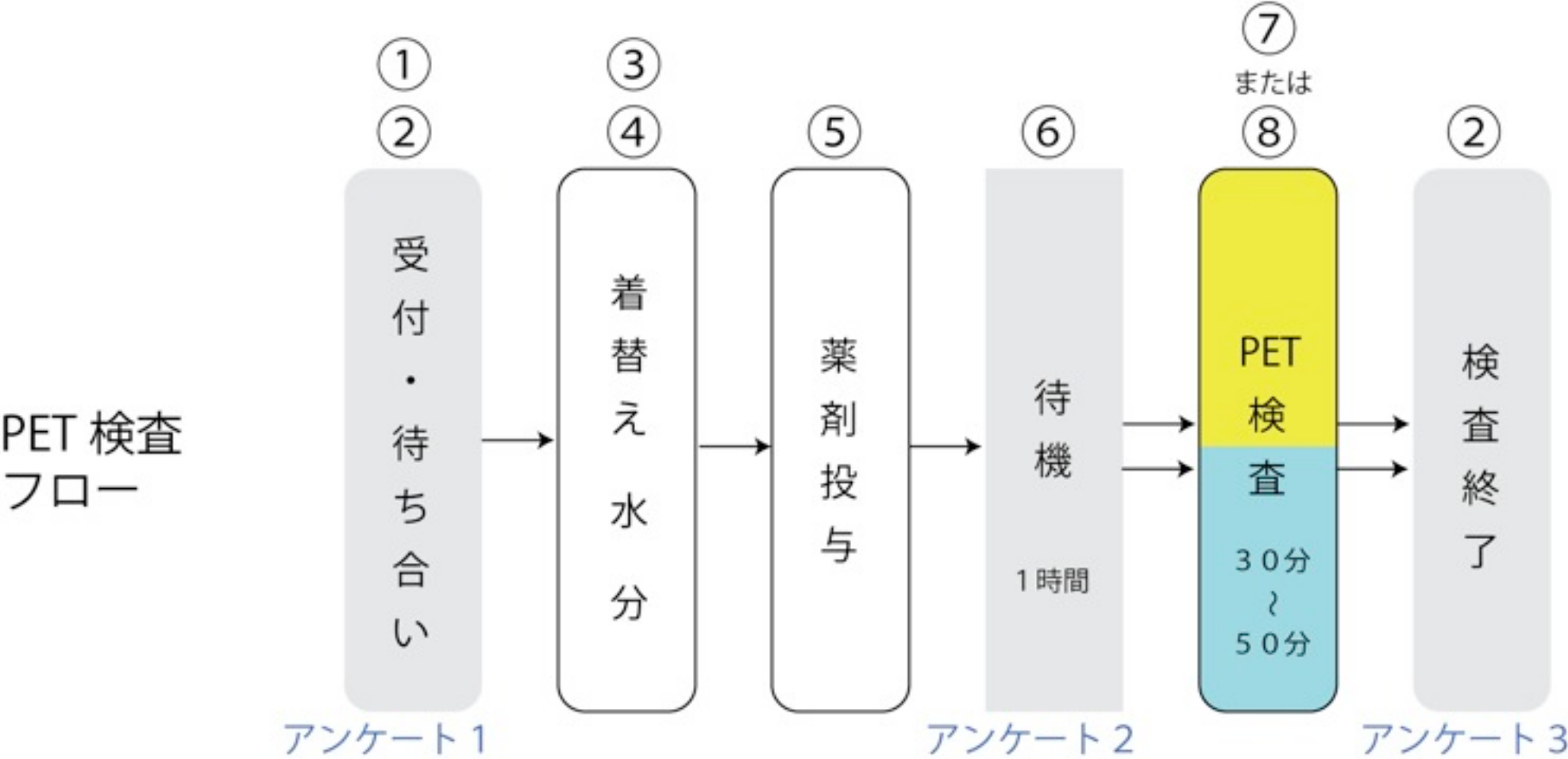
デザイン有り検査室



デザイン無し検査室

平成23年8月30日～10月14日 被験者数55名（デザイン有30名、無25名）にアンケート調査を施行した。

4. 調査フロー



	PET検査		
	アンケート1	アンケート2	アンケート3
STAI Y-1 状態不安	○	○	○
STAI Y-2 特性不安		●	
POMS 気分_活気 気分_疲労		○	○
検査の不安アンケート	○	○	○

5. 計測項目

POMS (気分-活気 および 気分-疲労) STAI (状態不安)

POMS 気分		全く	少し	まあまあ	かなり	非常に
						
	例) 楽しい気分だ	1	(2)	3	4	5
活気	①生き生きする	1	2	3	4	5
	②活気が湧いてくる	1	2	3	4	5
	③へとへとだ	1	2	3	4	5
	④ぐったりする	1	2	3	4	5
	⑤積極的な気分だ	1	2	3	4	5
疲労	⑥うんざりだ	1	2	3	4	5
	⑥精力がみなぎる	1	2	3	4	5
	⑦疲れた	1	2	3	4	5
	⑧だるい	1	2	3	4	5
	⑩元気がいっぱいだ	1	2	3	4	5

検査に対する不安

不安感のアンケート	全く 不安はない	あまり 不安はな	どちら でもない	やや 不安に思う	非常に 不安に思う
例) 検査にたいくつしてしまう	1	2	3	④	5
①検査着に着替える	1	2	3	4	5
②注射を打つ	1	2	3	4	5
③検査で放射性物質を使用する	1	2	3	4	5
④検査時間が長い	1	2	3	4	5
⑤検査室に入る	1	2	3	4	5
⑤PET/CT検査の装置に入る	1	2	3	4	5
⑥PET/CT検査中に体が固定される	1	2	3	4	5

STAI_1 状態不安	全く あてはまらない	いく分 あてはまる	かなり あてはまる	非常に あてはまる
例) 冷静である	①	2	3	4
①おだやかな気持ちだ	1	2	3	4
②安心している	1	2	3	4
③緊張している	1	2	3	4
④ストレスを感じている	1	2	3	4
⑤気楽である	1	2	3	4
⑥気が動転している	1	2	3	4
⑦なにかよくないことが おこるのではないかと心配している	1	2	3	4
⑧満足している	1	2	3	4
⑨おびえている	1	2	3	4
⑩快適である	1	2	3	4
⑪自信がある	1	2	3	4
⑫神経過敏になっている	1	2	3	4
⑬いらいらしている	1	2	3	4
⑭ためらっている	1	2	3	4
⑮くつろいでいる	1	2	3	4
⑯満ち足りた気分だ	1	2	3	4
⑰悩みがある	1	2	3	4
⑱まごついている	1	2	3	4
⑲安定した気分だ	1	2	3	4
⑳楽しい気分だ	1	2	3	4

得点化

結果の概要

○STAI 状態不安(全体)

検査開始前後 で、不安の変化率はデザイン有、デザイン無 どちらも12%減少

○STAI 状態不安(男女別)

検査開始前の不安は、女性が高い

デザイン有を利用した女性の不安感の減少率24%と高い

○STAI 状態不安(年齢別)

若年層(60歳未満)では、デザイン無の方が不安低減に効果的に働いた

○POMS気分[活気][疲労]

デザイン無を利用した人は、気分[疲労]が上がった人がやや多い

○年代別、検査の不安感:

50～59歳・60～69歳 デザイン無で検査の不安感減少

～49歳・70歳～ デザイン有で検査の不安感減少

まとめ

		
STAI状態不安	女性の不安感の減少	若年層(60歳未満)で不安低減
POMS気分_活気	上がった	上がった
POMS気分_疲労	上がった	上がった人やや多い
検査に対する不安	若年層(~49歳) 高齢層(70歳~)で減少	中年層(50~69歳)で減少

結論

検査室の環境デザインによる不安低減の効果は属性により影響が異なる。
適性に合わせることで、患者の不安を低減。